五十嵐さま

シグマ委員会幹事会
昭和５０年度第２回会合議事録

日　時：　昭和５０年９月１１日（木）　１３時３０分～１７時３０分

場　所：　日本原子力研究所東海研究所　研究２棟２２２号室

出席者：　塚田甲子男（委員長，原研），百田光雄（東北大），久武和夫（東工大），中嶋龍三（法大），飯島俊吾（ＮＡＩＧ），松延広幸（住友），大竹　巌（動燃事業団），更田豊治郎（原研），五十嵐信一（原研）

欠席者：　西村和明（原研），田中茂也（原研），桂木　学（原研）

配布資料

1) INDC Memorandum : Future CINDA publication work (Aug. 1975)
2) INDC Memorandum : Inter-centre discussions at Kiev, USSR (Aug. 1975)
3) List of Actions from 18th NEANDC Meeting
4) Letter to Members of the INDC Subcommittee on discrepancies (July 1975)

以上事前郵送

議　事

1. 核データセンターについて　（更田）

核データセンターの組織要求の経過報告が次のとおりあった。原子力局では認められ，大蔵省へ要求が出されている。人員は２名増。他センターとの関連で「核データセンター」という名称を変更するよう原子力局より要請があり，現在のところ，「原子核データ室」という名称で要求している（英文

はセンターでよいとのこと)。もっとよい名があれば，今後考えたい。

なお，原子力学会から，政府あてに，核データセンター設立要望書が出されている。産業界からの要望については必要に応じ別に検討することとした。

2. 遮蔽炉定数作成計画　(大竹)

前回本委員会で，炉定数専門部会として遮蔽炉定数作成に着手することについて了承を得たが，その後遮蔽工学専門委と炉定数専門部会との打合せの結果，遮蔽工学専門委では実際の作業はできず，炉定数専門委が全面的に作業をしなければならないことがわかったので，体制をあらためて考え直す必要がある状況になっている旨，報告があった。

質疑討論の末，本件については，炉定数専門部会で，仕事の内容，方向，体制などの具体案を作ったうえで，あらためて本委員会にはかることとした。

3. 予算使用計画について　(更田)

しばらく凍結していた計算費１００万円の使途につき審議し，JENDL-1作成に使用することとした。

4. 委託調査研究について　(更田)

(1) JENDL-1の委託契約の考え方につき，更田幹事より，JENDL-1作成を促進するという観点で契約を行っており，シグマ委員会のボランティア的活動への支援ということではない，ということで進めてきているが，若干の疑問も出ているので，この際，あらためて了承を得たい旨発言があった。

これに対し，考え方はそれでよいが，現実問題として，シグマ委員会の活動と重複してしまう部分もあり，誤解が生じないよう，運用上十分配慮されたい，との意見があり，そのように配慮することとした。

(2) 事務局より，委託，受託契約の状況につき，次のとおり報告があった。

(委) JENDL-1作成のための核データの調査(III) 5社1大学

契約済(7,540千円)

(委) 燃料計量用核データの調査(γ線強度標準) 広島大学

契約手続中（３００千円）

㊐ 高速炉用核データの評価(I)（Am－241　1KeV 以上）

動燃→原研　報告提出済

㊐ 高速炉用核データの評価(II)（Am－241　1KeV 以下）

動燃→原研　契約済

㊥ 核融合炉用核データの調査　　打合せ中（2,000千円）

5. 2年報について　（更田）

現在原稿依頼中である旨，報告があった。なお，原子力学会誌編集委員会で，委員会の報告という形では，読者にアピールしないので，工夫を要するとの意見もあり，他方，委員会報告をしょう励すべきとの意見も別にあって，若干編集上の工夫を要することになるかもしれないが，この点は，2年報担当の委員に一任することとした。

6. ＪＮＤＣニュースについて　（更田）

「ＪＮＤＣニュース」という名称は，ポピュラーでないので，名称を再検討してはどうか，との問題提起があり，幹事の間からも同感との意見が出され，今後，考えて行くこととした。

7. 「原子力工業」誌の特集企画について　（更田）

原子力工業から，核データの特集を企画してもよいとの話がきているとの報告があり，討議の結果，積極的にとりくむ方向で中嶋幹事に検討をお願いすることとなった。

8. 本委員会のオブザーバーについて　（更田）

本委員会に，委員以外の何名かに案内を出して出席を要請することにより，巾広く関係方面とのつながりをもっていくことが望ましい，ということで，どのような人をオブザーバーとして考えたらよいか，について意見を求めた。とりあえず，下記の人があげられたが，事務局において検討し，リストを作って再度了承を求めることとなった。この時点では

坂井，大沼，池上，田中（一），河合，水田，山田，中村，

八谷，東原，原子力学会事務局，弘田，湯本（ＰＮＣ）

各氏の名があがった。

9. ＮＥＡＮＤＣのaction listについて　（更田）

Action listのうち実行すべきは№２６項のみと思われるので，本項につきＪＮＤＣニュースで周知することとした。

10. ＪＮＤＣ会合について　（更田）

(1) Non-neutron dataに関する勧告についての質問状への回答について

更田幹事の回答書（各幹事に配布済）について意見あればあとで連絡することとした。

(2) ＩＮＤＣより日本委員に対し，①各国のデータセンターの状況と展望，②発展途上国との協力関係という２件のworking paperを用意するよう指示してきており，更田幹事が用意する旨，報告があった。

(3) ＣＩＮＤＡの発行周期について

次の２案があり，討議の結果，工案の方がよさそうであるとの結論に達した。

	I	II	
1976 春	CINDA 76/77	CINDA OLD(≤1969)	CINDA NEW(≥1970)
秋	Suppl. 1	↓	Suppl. CINDA 77 NEW
77 春	〃 2 (including Suppl. 1)	↓	Suppl. CINDA 78 NEW
秋	〃 3 (including Suppl. 2)	↓	
78 春	CINDA 78/79	↓	

11. 大沼氏の講演について　（更田）

ＩＡＥＡのConsultants' Meeting on Charged Particle Nuclear Data Compilationに出席中の大沼氏に，次回本委員会において講演をお願いすることとした。

なお，田中（一）氏のグループの活動に関する講演も次の機会に考える。

12. 専門部会，W.G. の再編について （更田）

現在，燃料計量や核融合炉など，applicationによって編成されている部会W.G. があるが，Data 中心で考えることも必要であり，また，核構造関係データの検索システムの検討など新しい仕事も必要になっているので，今後，専門部会，W.G. の再編も検討する必要があるのではないかとの問題提起があった。

13. 人事

大竹氏の動燃事業団への移動，桂木氏の企画室への移動，西村氏の研修所への移動など，人事移動にともない，委員会としても，人事を再検討する必要があるか，について検討した。また，原研の幹事について各部代表的な人およびＮＥＡＣＲＰ関係をいれるべきかどうかについても問題提起があった。

移動にともなうものについては，大竹氏に関しては，動燃事業団としては井上氏が本委員をやめることとしたい，富士電機からは本委員の後任（中村氏）を出したい，との表明があったが，その他については，関係者の意向の確認もないこと，年度途中のメンバー変更は事務的にも繁雑であるので，しばらく見合わせることとした。また，幹事会のメンバー変更についても，一般的に増員には強い反対意見もあり，あらためて検討することとした。

なお，中村氏については，当分，オブザーバーで本委員会に出席してもらうこととした。

14. 坂井氏よりの要請について （久武）

「バンドストラクチャ」のCompilationを坂井氏が進めており，当委員会に協力の要請が来ている旨，報告があった。審議の結果，シグマ委員会としては，意義あるテーマであり，今後，前向きの方向で検討することとした。

15. 次回本委員会の日程

１０月２３日（木）の予定。なお，学会事務局にも通知をしておく。